

第2次答申に向けた小規模教育の位置付けに関するグループワークの結果

令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ A**

ポイント - 結果共有のための発表から

- 小規模であることあることの良さは十分に理解できた。また、課題があることもよくわかった。
- 教師のやりがい良さとなっている反面、やりがいだけでは続かないといったことが課題として出てきている。
- 家族のような雰囲気、あるいはこども一人一人の名前も顔もわかって、安心して過ごせるというような良さもある反面、課題の方にも挙がっていて、人間関係の固定化であったり、極端な表現でいうと、一人一人が浮き彫りになって逃げ場がないということになってしまう。
- 以上のように、良さも課題も両方あることから何がみえてくるかというと、児童生徒数と教職員数がキーワードとして挙がり、それが保護者・PTAへの負担にもつながっているということが出てきました。
- 具体的には一人あたりに掛かるお金の面やPTA活動の問題等が挙げられる。

グループ A	第1ラウンド	学校の規模が小規模であることの良さ	課題を整理すると何がみえてくるか？
<p>ご検討いただくこと</p> <p>①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください(自分の書きやすい向きで書いてください)。 ②各々から考え方を含めて発表し合い、同じような意見を線で囲んだり、多かった意見や皆が大切だと感じた意見、印象に残る意見に印を付けるなどして、メンバー全員で「良さ」と「課題」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。</p>			
		<p>良さ：小規模であることの強み 小規模だからこそ実現できていることやその良さは何か</p>	<p>課題：小規模であるが故の弱み 小規模であるが故に生じる難しさや課題は何か</p>
児童の視点	児童の視点	<p>PTAが大変と感じる</p> <p>進学等の際は大変な費用がかかる(塾生が適たに困難を感じる)</p> <p>児童生徒の人間関係が固定化</p> <p>お金の問題、人数が増えたとコミュニケーション</p>	<p>児童の視点</p> <p>お金の問題、人数が増えたとコミュニケーション</p> <p>人間関係の固定化</p> <p>個性を受け入れられない</p> <p>反面</p>
教育活動・学校運営の視点	教育活動・学校運営の視点	<p>児童生徒の個性が活かせる</p> <p>先生一人一人の個性が活かせる</p> <p>児童生徒の個性が活かせる</p> <p>先生一人一人の個性が活かせる</p> <p>児童生徒の個性が活かせる</p> <p>先生一人一人の個性が活かせる</p>	<p>児童の視点</p> <p>お金の問題</p> <p>教職員の負担の増大</p> <p>児童生徒の個性が活かせる</p> <p>先生一人一人の個性が活かせる</p> <p>児童生徒の個性が活かせる</p> <p>先生一人一人の個性が活かせる</p>

人の数
 子どもの数
 先生の数

第2次答申に向けた小規模教育の位置付けに関するグループワークの結果

令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ B**

ポイント - 結果共有のための発表から

- 小規模であることの強みと児童の学びの視点では、個別で目が行き届きやすいこと、自ら主体的に学び、様々な場面で活躍できる機会が多いことから責任感が身に付くという良さがあり、また、小規模のため学年を超えた活動が盛んに行うことができ、集団としての絆が生まれるという意見が出された。
- 課題面で捉えると、子どもたちが気を抜けない状況になってしまうこと、多様な考えに出会えないのではないかという意見が出された。また、同年代同学年の仲間との触れ合いが希薄になること、人間関係の固定化も起こってしまう。
- 教育活動や学校運営の視点では、児童生徒がやりたいということに寄り添うことができること、小回りが利くこと、一人一人に目が届きやすいことが出された。
- 課題としては、先生方への負担が大きいこと、PTAへの負担もかかってくることが挙げられ、地域やPTAの協力が必須であるということが課題の一つとして挙げられています。

グループ B	第1ラウンド	学校の規模が小規模であることの良さ	課題を整理すると何が見えてくるか？
<p>ご検討いただくこと</p> <p>①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください(自分の書きやすい向きで書いてください)。 ②各々から考え方を含めて発表し合い、同じような意見を線で囲んだり、多かった意見や皆が大切だと感じた意見、印象に残る意見に印を付けるなどして、メンバー全員で「良さ」と「課題」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。</p>			
		<p>良さ：小規模であることの強み 小規模だからこそ実現できていることやその良さは何か</p>	<p>課題：小規模であるが故の弱み 小規模であるが故に生じる難しさや課題は何か</p>
<p>児童の学びの視点</p> <p>児童生徒が学びたいのか</p>	<p>学習環境の豊かさ 学びたい居場所(先生と生徒の関係性)</p> <p><u>個別対応</u> 地域文化活動のネットワークが広がる</p> <p>子どもに寄り添った学び 漆</p> <p>二つありたい</p>	<p>学年を超えた交流</p> <p>活躍できる</p> <p>責任感</p> <p>責任感がつく</p> <p>全校の繋がりが強い</p>	<p>子どもの成長のスピードが小さい(同年代、学年)</p> <p>考えが浅くなる</p> <p>多様な意見に触れられないこと</p> <p>(学校自己評価より) 自分の考えを表現する力</p> <p>追学の不安(保護者)</p> <p>多様な考えに出会えない</p> <p>人間関係が広がりやすい</p> <p>同年代同学年</p> <p>気を抜けない</p>
<p>教育活動・学校運営の視点</p> <p>先生や学校がやりたいのか</p>	<p>環境、関係性</p> <p>児童のやりたいことをできる</p> <p>自由進度学習がしやすい</p> <p>ICT活用がしやすい</p> <p>やりたい体験がしやすい</p> <p>できている</p>	<p>生活面が楽になる</p> <p>全校でのテーマ活動ができる</p> <p>児童がやりたいことに寄り添える</p>	<p>過剰な負担が大きい</p> <p>保護者負担</p> <p>専科教員の不足</p> <p>教員の業務量の多さ</p> <p>地域との協力が少ない</p> <p>運営が難しい</p> <p>保護者負担</p> <p>(町内)交流</p> <p>児童会、PTA負担</p> <p>地域との協力が必須</p>

第2次答申に向けた小規模教育の位置付けに関するグループワークの結果

令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ C**

ポイント - 結果共有のための発表から

- 児童の学びの視点からの強みでは、キーワードはやはり個別、一人一人、ふるさと学習や体験的な学習が出てきた。そのキーワードから導かれる強みはというと、自律的な学び、その子らしい学び、個性的な学び等ができることが強みとしてある。
- 学校運営の視点では、小回りが利く、きめ細かな学習支援ができる、学校はチームになるというようなキーワードが出てきた。そのキーワードから導かれる強みはというと、個性や多様性に応じた柔軟な学習環境を整えることができるということ。また、小規模教育の強みの教育理念や教育方法、そういったようなことができるということが強みとして挙がってきた。
- 弱みの方では、人間関係の固定化、評価の固定化、リーダーの存在などが挙げられ、もっともっと成長できるのに、その成長が困難な状態になってしまうのではないかとということが挙がった。
- 学校運営については、やはり教員数が少なくなるため、教員の負担が重くなること、あるいは教員個人の力量への依存度が当然高くなってしまふことが挙げられた。また、地域の学校への協力が学校運営に欠かせないため、学校と地域の連携から協働への移行ができれば、学校運営に支障をきたしてしまうという意見が出た。

グループ C	第1ラウンド	学校の規模が小規模であることの良さ	課題を整理すると何が見えてくるか？
<p>ご検討いただくこと</p> <p>①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください(自分の書きやすい向きで書いてください)。 ②各々から考え方を含めて発表し合い、同じような意見を線で囲んだり、多かった意見や皆が大切だと感じた意見、印象に残る意見に印を付けるなどして、メンバー全員で「良さ」と「課題」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。</p>			
		<p>良さ：小規模であることの強み <small>小規模だからこそ実現できていることやその良さは何か</small></p>	<p>課題：小規模であるが故の弱み <small>小規模であるが故に生じる難しさや課題は何か</small></p>
児童の学びの視点	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 個別の対応、一人一人の活躍の機会(表理) ◦ 小さな学習を基軸にして、魅力的な学び、地域に密着した ◦ 一人一人がリーダーになれる(発表) ◦ 異学年の学習活動(なかのり) ◦ 一人一人の<u>自律的な学び</u>、<u>自分らしい学び</u>、<u>個性的な学び</u> ◦ 体験的な学習(祭りなど地域の環境) 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 意図の不明確 ◦ 自己主張の強いリーダーの存在が協働的な活動が難しい ◦ 人間関係の固定化、評価の固定化 ◦ ライバルが少なくて切磋琢磨の環境が不足(成長が困難) ◦ 部活動等「自由過ぎ」を伸ばす機会や場が少なくなる 	
教育活動・学校運営の視点	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 小回りがかよく、地域外協力的 ◦ 個別指導がしやすい(その場での指導) ◦ 個性や多様性に合わせた柔軟な学習環境 ◦ 学校がチームになりやすい ◦ 小規模教育を強みとする教育理念や教育方法がある(制作の行事) 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 教員個人の力量への依存度が高い ◦ PTAなど将来を見据えた活動が必要 ◦ 教員の負担が重くなる(各校学年別の教材研究指導準備...) ◦ 教員同士の摩擦が少なくなる ◦ 教師が少ないので、特定の課題に組織的に対応することが困難な場合がある <p>→ 多すぎると同じだ</p> <p>◦ 地域との協力が必要 = 学校運営への 連携 ⇒ 協働</p>	